

インフォメーション

問い合わせ・申込み：仙台市市民活動サポートセンター  
TEL 022-212-3010 / FAX 022-268-4042 Mail sendai@sapo-sen.jp

☆ サポセン20代交流会～仙台で活動する若者大集合!～

日 時：1月25日(金) 18:30～20:30  
会 場：仙台市市民活動サポートセンター 地下1階 市民活動シアター  
内 容：仙台には、さまざまな分野で活動する20代がたくさんいます。同じまちで活動する同世代と、お酒を飲みながら交流しませんか?仙台の若者世代の市民活動を活性化させることを目的に、同世代間の交流を深める20代限定の交流イベントを開催します。  
対 象：20代限定 / 同世代と交流を深めたいと思っている個人や団体など  
入 場 料：無料 1ドリンク300円(アルコール有)  
※アルコールを提供するため、年齢確認のできるものを持参ください。  
※お車でお越しの方の飲酒は、ご遠慮ください。



サポセンスタッフから



お気軽にご相談ください。一人ひとりの思いと行動を応援しています。

サポセンでは、活動を始めて間もない個人の方や団体のお悩みから、企業の社会貢献活動についてまで幅広い相談を受け付けています。また、他機関への出張相談も行っています。例えば、仙台市起業支援センター「アシ☆スタ」の「起業・創業なんでも相談DAY」では、起業にあたっての漠然とした思いの整理のお手伝いをしています。  
ぼんやりと「何かを始めてみたい」と思っている、実際に何をしたらいいのか、悩んでしまうかもしれません。NPOや起業に限らず、自分の好きなことや興味関心、始めたいと思ったきっかけなどをお話ください。必要に応じて様々な専門家や関係機関と連携して、課題解決をサポートします。(嶋村)  
相談受付時間 平日 10:00～20:00  
日曜・祝日 10:00～17:00(休館日をのぞく)  
相談料 無料  
※確実に相談時間を確保するため、できるだけ事前にご予約をお願いします。



お知らせ 仙台市市民活動サポートセンターは、1999年青葉区本町で開館、2006年に現在の場所に移転しました。お陰様で2019年6月に開館20周年を迎えます。これからも市民の自発的な活動を応援していきます。

つながる つなげる サポセン

仙台市市民活動サポートセンターとは

様々な分野の市民活動、ボランティア活動の支援施設です。「自分たちのまちをもっと良くしたい」。そんな市民の自発的な活動を応援します。

ご相談ください

ボランティア活動をしたい / 団体を立ち上げたい / 組織運営の悩みを解決したい / 他の団体や他のセクターと連携したい / 自分のスキルを地域や社会に役立てたい...

今月の休館日 1月9日(水)、23日(水)	
開館時間	月曜日～土曜日 9:00-22:00 日曜日・祝日 9:00-18:00
休館日	毎月第2・第4水曜日(祝日の場合は翌日木曜日) 年末年始

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3  
TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042  
地下鉄南北線「広瀬通駅」西5番出口すぐ / 地下鉄東西線「青葉通一番町駅」北1番出口から徒歩6分  
[HP] <http://www.sapo-sen.jp> [Blog] <http://blog.canpan.info/fukkou/> [Twitter] @sensapo

仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行っています。[指定管理期間2015年4月1日～2020年3月31日]

市民ライターが、仙台の市民活動団体やワクワクビトを取材しています!

▶ 市民ライター  
[http://blog.canpan.info/fukkou/category\\_23/1](http://blog.canpan.info/fukkou/category_23/1)

▶ 「ぱれっと」バックナンバーはホームページからダウンロードできます。  
▶ ぱれっとに関するご意見をお寄せください。

[ぱれっと読者アンケート]  
サポセンホームページからアクセスいただくか、携帯電話等で2次元バーコードを読み取ってご利用ください。



発行 仙台市市民活動サポートセンター  
発行日 2019年1月4日  
編集 特定非営利活動法人せんだいみやぎNPOセンター  
デザイン PEACE Inc.  
編集人 太田貴 菅野祥子 松村翔子 鎌田みずほ 水原のぞみ  
発行部数 3000部  
配布場所 市内公共施設や行政窓口、市内一部店舗、市内外の支援施設

# ぱれっと

サポセンは2019年6月に開館20周年を迎えます!



仙台市市民活動サポートセンター通信 ぱれっと 2019 No.233

「ぱれっと」には、仙台市市民活動サポートセンター(サポセン)にいろいろな人が集まり、それぞれの色(個性)が発揮され、新しい出会いや活動が生まれていく。そんな願いがこめられています。

今月のワクワクビト 仙台ツウリストインフォメーションデスク ナバス グスタボ Navas Gustavo さん(26)

世界の人にもっと仙台の歴史や魅力を伝えたい

「クリスロード商店街の名前の由来を知っていますか?」。観光客に仙台の豆知識を披露するのは、仙台在住のベネズエラ人留学生ナバスさんです。東北大学院生として機械工学を学びながら、主に外国人観光客を対象とした観光案内窓口、仙台ツウリストインフォメーションデスク(以下、i-SENDAI)の案内人をしています。窓口では、母国語であるスペイン語と英語・日本語を駆使して、観光スポットや体験プログラムの提案はもちろん、交通手段の説明など、観光客の様々な相談に乗っています。  
14歳の時に雑誌で知った、日本車の技術に感銘を受け、機械工学を学び日本で働こうと来日を決意。念願叶い21歳で東北大学に1年間短期留学した際、仙台で伊達政宗を知りました。日本の車に加え歴史にも興味は広がりました。一押しの歴史観光スポットは、青葉城の本丸や二の丸、三の丸があった川内地区。「夢は自分で考えた歴史ツアーで多くの人をおもてなしすることです」。世界の人々と仙台をつなぐ架け橋となるため、今日も窓口に立ちます。

取材・文 市民ライター 伊藤友里



特集

八木山の2025年を見据えた、

互いに助け合うまちづくり

—地域包括ケアシステム—

仙台ツウリストインフォメーションデスク(愛称:i-SENDAI)

設置場所 仙台市青葉区一番町3-2-17 藤崎本館1階 青葉通側入口  
営業時間 10:00～19:30 HP <http://i-sendai.jp/> 連絡先 support@i-sendai.jp  
i-SENDAIとは、2016年12月に設置された多言語に対応している観光案内所です。商店街情報発信機関である一般社団法人まちくる仙台が運営・管理をしています。毎年、観光ボランティアスタッフ養成講座を開催。約2ヶ月間で全5講座を実施しています。仙台の魅力を広げようとなバスさんをはじめ、約100人以上がこのプログラムを修了し活躍しています。

# 八木山の2025年を見据えた、互いに助け合うまちづくりー地域包括ケアシステムー

動物公園やベニーランドが位置する八木山地区は、東北工業大学がキャンパスを構え、地下鉄東西線が開通するなど、多くの人が行き交う地域です。一方で、町内には高齢化に伴う様々な地域課題も存在します。2025年問題(※)に挑むために、多様な地域機関が連携する取り組みを紹介します。



八木山の未来に向けて包括的なまちづくりがしたい

八木山まちづくりプロジェクト

八木山地区  
社会福祉協議会 会長  
ひろせひろし  
廣瀬博さん

八木山地域再・創生  
ボランティアグループ  
YARVOG代表  
なみかわこういち  
並河浩一さん  
(元八木山市民センター 館長)

八木山まちづくりプロジェクトを母体とする  
八木山ハーブまちづくり実行委員会の面々

- 八木山連合町内会 ●八木山地区社会福祉協議会 ●八木山地域包括支援センター ●東北工業大学
- 八木山地域再・創生ボランティアグループYARVOG ●八木山地区民生委員児童委員協議会(民児協)
- 八木山地区老人クラブ連合会(老人会) ●日本赤十字八木山地区奉仕団 ●仙台赤十字病院 など

## ハーブが彩るまちづくり

八木山まちづくりプロジェクトは、八木山地区社会福祉協議会(以下、地区社協)や八木山連合町内会(以下、連合町内会)、東北工業大学、地域のボランティアグループなどで組織され、子どもからシニアまで幅広い世代が、一丸となって福祉のまちづくりに取り組んでいます。地区社協会長の廣瀬博さんは「多様な人たちがお互いに助け合う地域になることを目指しています」と話します。

プロジェクト内で2018年に結成した八木山ハーブまちづくり実行委員会(以下、実行委員会)は、ハーブを活用した多世代の交流の場づくりに取り組んでいます。高齢化に伴い増えた空き地・空き家へのハーブの植え付けや、町内会の集会所、個人宅にハーブ栽培用の苗を配布しています。摘み取ったハーブで料理教室やお茶会を開き住民みんなで楽しんでいます。住民からは、「香りに癒された」「これから色々なハーブを取り揃え楽しみたい」と好評です。

## 2025年問題に正面から取り組む

八木山地区は、1960年代半ばから大規模な住宅開発が進められた地域です。現在の高齢化率は市内でも比較的高い、約32%となっています。さらに、2025年には団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となります。また、八木山の住民の約2割がすでに後期高齢

者です。2025年には、その大半が80代後半以上となる直視せざるを得ない課題があります。

そうした中、八木山に互助の取り組みが次々と立ち上がりました。例えば、2008年4月に発足した仙台八木山防災連絡会は、宮城県沖地震の再来に備え、日頃から住民が防災意識を高めるために活動してきました。八木山地域再・創生ボランティアグループYARVOG代表の並河浩一さんは「東日本大震災発生直後から、八木山中学校の生徒約400人が積極的にボランティア活動に取り組んでいました」と当時をふり返ります。2016年と2017年には、八木山地域包括支援センターと東北工業大学が、高齢者の社会参加を促すことや、認知症に不安を抱える住民を地域で支えることを目的に、「ケアパス」というリーフレットを企画編集しました。これには、地区社協や仙台八木山防災連絡会が協力しました。

これらの連携を経て2017年6月、八木山まちづくりプロジェクトが立ち上がりました。廣瀬さんは「これまでの活動の実績や成果を踏まえ、互いのメリットを意識しながら、課題に応じて部会を組織し取り組んできた」と地区の歩みを語ります。

各団体の互助の取り組みは一定の成功を収めました。参加者の固定化が新たな課題に。そこで、2018年4月、女性のプロジェクトメンバーの発案から「ハーブまちづくり実行委員会」が始動。栽培や加工を



- 八木山ハーブまちづくり実行委員会  
Mail info@herb.yagiyama.jp HP http://herb.yagiyama.jp

通じて、これまで地域活動への参加が少なかった世代を巻き込むことが狙いです。活動に賛同したボランティアは子育て世代や学生を含め、現在150名以上になりました。

## 互助の街を継承するために

実行委員会は今後、挿し木を住民に配布する「ハーブの里親制度」を始めます。栽培しやすいハーブを住民が育て、学生などのボランティアが生育の様子を伺うことと同時に、住民間の見守りを行うことが狙いです。「今までお世話になったまちを次の世代に繋げるためには、新しい若者が入ってくるだけでは解決しません。地域に関心を持って、顔なじみの関係になることで、安心した暮らしにつながります」と、並河さんは2025年のその先を見据えます。住み慣れた地域の恩恵を後世に伝えていくため、これからも取り組みの輪を広げていきます。(取材・文 嶋村威臣)

※2025年問題(参考:厚生労働省HP)  
約800万人いるとされる団塊の世代(1947年~49年生まれ)が後期高齢者になり超高齢社会へ突入する問題。医療・介護・福祉サービスの整備が急務である一方、社会保障財政の崩壊の懸念が提示されている。

## 世代を超え、思いのままに語り合える読書会

本楽(ほんらく)カフェは、仙台市を拠点に「読んだふり読書会」や「架空読書会」など本に関するイベントを企画している団体です。「架空読書会」とは、実在しない本を実在するかのよう内容を語り合う読書会のこと。架空の本なので、参加者の年齢や経験、知識を問わず誰でも語り合うことができ、読書好きでなくても参加できます。読書会のお知らせはチラシ、ツイッターから。  
Twitter @honraku\_sendai  
Mail honraku.sendai@gmail.com



市民ライター 阿部哲也

## 杜プラは人間関係の経由地点

杜の都プラモ会(以下、杜プラ)は誰でも自由に参加できる模型制作会です。車や建物、フィギュアなど様々なプラモデルを持ち込んで談笑しながら作業をします。制作会は月1~2回、仙台市の公共施設で開催。参加者は20代が中心ですが中高生や親子連れもいます。半年に一度、制作技術の発表の場として展示会を開催し、作品を一般に公開。制作者の模型制作に対するモチベーションアップを図っています。「広く模型について知ってもらふことでつくり手を増やしていきたい」と会長の工藤真希さんはねらいを話します。

工藤さんが仙台初の制作会を始めたのは2014年11月。模型制作は基本的に個人作業。仲間内で集まって模型を制作する場などもありますが、既存のコミュニティは、なかなか入りにくいものです。そこで杜プラは仲間内のためだけでなく、初めての人も自由に出入りでき、交流できる制作会を企画しました。「大切にしていることは毎回自己紹介の時間を設けるなど、コミュニケーションのきっかけを作ることです」と副会長の高橋恵太さんは工夫を話します。

ひとりで集中して模型を作る楽しみだけでなく、同じ趣味同士の関わりは、説明書だけでは分からない、新たな技術やジャンルに触れる機会になりそうです。



▲参加方法の詳細はTwitterからご覧ください。

■連絡先  
杜の都プラモ会(通称杜プラ)  
http://mori-pla.com/  
Twitter:@Mori\_pla

## ごみは宝の山

「ごみ学のすすめ」として身近なごみ問題からその本質に迫っている一冊です。Reduce(発生抑制)、Reuse(再使用)、Recycle(再生利用)の3Rの視点で、国内外のごみ処理による利活用方法やごみ発電などが紹介され、ごみがいかに「宝の山」に変わるかが見えてきます。また消費者の責任として、ごみの発生抑制や再利用を改めて考えさせられます。本書を読んで、資源や環境を大切に「循環型社会」を考えてみてはいかがでしょうか。



## 「子育て支援活動を応援するイベント『活動見本市』開催

子育て支援団体の活動を広く多くの人に発信するイベントです。参加費無料。幼稚園、保育園などでイベント企画を担当している人や、子育て支援活動に興味・関心のある人、活動を始めたい人におすすめです。  
開催日:2019年1月31日(木)13:30~16:00  
場所:のびすく泉中央 4F ホール・活動室  
内容:ステージ発表/パネル展示/チラン設置/交流会  
主催・申込み:仙台市子育てふれあいプラザのびすく泉中央  
TEL 022-772-7340 FAX 022-375-0671

